

☆☆

しずおか愛護

No.33 (平成30年7月30日発行)

静岡県知的障害者福祉協会・広報 発行

☆☆

巻頭言

人生はハプニングの連続で面白い

2年ほど前に10年拝命していた県知協副会長をいろいろな事情によって下ろさせていただいた。所属する法人のことも気になったし、会の若返りも必要だと思ったので。

が、任期満了に伴う会長選挙が行われることとなり、私を「推薦するから」と何人かの施設長から連絡をいただくもまだ自身の心は煮え切らず、「私が出なくても良いのではないかと悶々とした日々を送った。そんな日々を送っていると告示の日が近づき、結局会長選に出馬することとなってしまった。また、選挙当日は所信表明演説を20分しなければならないと選挙事務局から連絡が入った。

人前に出て自己の思いを主張することを避けてきた人間にとってこの表明は絶対にしたくないと思ったが、結局当日しない訳にはいかず、日頃自身が思っていることの話をしていただいた。

私は、教育基本法の教育の目的「教育は人格の完成を目指し・・・」のこの人格を人権擁護（自由・平等）＋共生社会の実現であると思っている。一人ひとりの自由と平等を認め合いながら生きづらさを抱える人たちと共に生きていくことを目指そうとする、そんな思いを持つことが人格なのだ。この思いは、日本社会福祉士会やソーシャルワーカー協会の倫理綱領にある《社会正義》と同じであり、こんな社会を創って行こうとする人格をもち、そういう社会をつくっていきたいと思う。

日常の支援を通じ、このような社会の実現を目指すことが私たち現場で働く職員の正義であり使命であると話させていただいた。

この話の後、具体的な会の事業について若干説明もさせていただいた。

所信表明を辞書で調べたら、信じていることを話せばよいとのことだったので、大切にしてきたものを話そうと思った。

後日談として「正義を語るときアンパンマンのことを例え話にしたので、アンパンマンのことしか思い出せない」と笑いながら言っていた施設長がいた。私は、それでいいと思った。あのマーチは私たち現場で働く職員の応援歌でもあると思っている。何かのことで意気消沈したときあのマーチを思い、勇気百倍になって物事に当たることができればと思う。

さて、次はどんなハプニングが起こるのだろうか？



静岡県知的障害者福祉協会
会長 池谷 修

静岡県知的障害者福祉協会
平成30年度事業計画

1 方針

障害のある人すべてが社会の一員として、社会・経済・文化等あらゆる活動に自由に参画できる、障害者差別のない社会の実現を目的とする。その目的を果たすために会員事業所に勤務する職員の資質の向上に努め、利用者に提供する福祉サービスの質と量の向上を図るものとする。

今年度も制度改革や差別解消の視点が重要となる。社会福祉法人制度の見直しでは、「社会福祉法等の一部を改正する法律」として平成28年3月31日に交付され、これに伴い各社会福祉法人は新評議員会を組織し、新たな理事・監事の選任を行ってきた。また、平成28年度決算に基づく社会福祉充実計画の策定と所轄官庁への承認申請が必要となり、各法人はこの地域への貢献に関する対応をさらに求められていくこととなる。

これらの課題とともに、一昨年7月に発生した相模原障害者施設殺傷事件は未だその余波が続いており、防犯のみならず障害福祉全般を取り巻く環境が大きく揺れている。さらに『平成28年度都道府県・市町村における障害者虐待事例への対応状況』（平成29年12月厚労省発表）によると、障害者福祉施設従事者等による被虐待者数は27年度より103人増加し、672人と報告されている。障害者が福祉従事者により虐待を受けているというショッキングなデーターを看過するわけにはいかない。障害者差別解消法への対応とあわせ、人権についての様々な観点からの議論が必要である。

2 具体的な重要事項

障害のある人が、年齢や個々の障害の内容、程度に応じた、自立に向けての総合的支援が利用でき、地域での生活が可能になるように、発達支援、日中活動支援、生活支援、就労支援、職場定着支援、相談支援、在宅福祉サービスの充実を図るなど、必要な支援を継続して提供できる体制を確保するために、次の項目の研究と協議を行う。

- (1) 障害のある人たちへの人権擁護・差別解消・虐待防止、日常生活及び社会生活の総合的支援、共生社会実現を理念とし、虐待防止についての職階別研修実施など福祉サービスの質の向上や苦情解決制度の適正な運営に努める。
- (2) 職員研修所などの開催する研修や研究活動を推進し、職員の資質向上に努める。更に、計画相談支援や個別支援計画の質を高めるために、相談支援体制の充実を図る。
- (3) 芸術、文化、スポーツ活動への理解と啓発のため、積極的な取組みを図り、これらの活動の実践や成果を記録し広報活動を行う。
- (4) 大規模災害への防災対策、危機管理対策、個人情報保護対策の推進に努める。
- (5) 障害者総合支援法と関連法、障害者の人権擁護に関する各種の法令や障害者差別解消法などに関する研修と情報の提供を行う。
- (6) 社会資源としての役割を果たすために、各地域で策定される障害福祉計画、あるいは設置されている自立支援協議会に専門的サービス提供事業者として必要な提言などを行い、地域の関係機関との連携を重視する。また、これらの提言などの共有化を図る。
- (7) 知的障害者支援サービス提供事業者の団体として、サービス提供体制や制度の研究、会計制度の研修を行い、法令順守の質を高め、さらに経営上の課題を把握し、関係機関、団体との連携を図り、必要な提案、要望を行う。さらに政策委員会活動に積極的に参画し、日本知的障害者福祉協会、東海地区会などに各種の提言を行う。
- (8) 東海地区会が主管する職員研究協議会（7月12日～13日、豊橋）、施設長等研究協議会（9月3日～4日、三重）が開催されるので運営等に協力をする。
- (9) 人材確保委員会、県内にある地域自立支援協議会会長との意見交換会さらに虐待発生施設・事業所への県知協による評価の実施（会員施設が発生に備え事前申し込みをした施設等のみ）等について31年度創設に向け検討を行う。

《新規加入施設》(平成30年4月加入)

地区	設置主体名	所在地	施設名	部会	施設長等名	定員
中部	健生会	静岡市	LIB	児童発達支援	くりた みつる 栗田 満	10
	牧之原やまばと学園	吉田町	ケアセンター マーガレット	日中活動支援	ますだ きょうこ 増田 今日子	20
西部	浜松市社会福祉事業団	浜松市	ひまわり こころん	児童発達支援	うえだ のりこ 上田 紀子	10
	〃	〃	ひまわり ひくまの丘	〃	おおた ゆうこ 太田 裕子	10
	復泉会	〃	くるみ作業所	生産活動 就労支援	そぶかわ つかさ 曾布川 司	36
	東遠学園組合	菊川市	東遠地区生活 支援センター	相談支援	よしい きりこ 吉井 桐子	-

平成30年度 役員名簿

役職名	氏名	施設名	部会	摘要
顧問	寺田亮一	安倍学園	児童発達支援部会	
〃	志賀口 弘	社会福祉法人 和光会前理事長		
〃	八谷重之	静岡中東遠障害者就業・生活支援 センター ラック	相談支援部会	
会長	池谷 修	沼津のぞみの里	障害者支援施設部会	
副会長	出水巖生	三方原スクエア児童部 三方原スクエア成人部	児童発達支援部会 障害者支援施設部会	研修委員会担当 児童発達支援部会長
〃	天良昭彦	駿豆学園	障害者支援施設部会	事業委員会担当 障害者支援施設部会長
〃	家込久志	ほっと	日中活動支援部会	総務委員会担当 日中活動支援部会長
〃	滝口裕二	掛川工房つつじ	生産活動・就労支援部会	危機管理・ 人権擁護委員会担当 支援スタッフ委員会担当 生産活動・就労支援部会長
理事	江森静子	児童発達支援センター ガゼルの森	児童発達支援部会	栄養部会担当 児童発達支援副部会長

//	袴田章彦	四季の郷	障害者支援施設部会	危機管理・災害担当 障害者支援施設副部会長
//	原 邦人	ミルキーウェイ	日中活動支援部会	人権擁護・虐待防止担当 日中活動支援副部会長
//	鈴木善道	みのり	生産活動・就労支援部会	事務部会担当 生産活動・就労支援副部会長
//	高木徳雄	クララ寮	地域支援部会	保健・医療部会担当 地域支援部会長
//	中村文久	障害者就業・生活支援センター さつき	相談支援部会	文化担当 相談支援部会長
//	三田充彦	さした希望の里 なんぶう館 こだま	障害者支援施設部会 地域支援部会 相談支援部会	広報担当 地区代表（東部）
//	降矢章治	ヴィヴァーチェあしくぼ	日中活動支援部会	スポーツ担当 地区代表（中部）
//	山田宗克	松ぼっくり	日中活動支援部会	人材養成担当 地区代表（西部）
監事	三谷末光	一般社団法人静岡県社会就労セ ンター協議会 顧問		
//	古井慶治	社会福祉士 ふるい後見事務所		

第53回静岡県知的障害者福祉協会大会報告

事務局 青野剛明

第53回静岡県知的障害者福祉協会大会が、平成30年6月26日（火）もくせい会館で開催され、171人の会員と来賓の皆様が参加されました。

駿豆学園の天良昭彦副会長の総合司会のもと、家込久志副会長（ほっと）の開会のことばで開会しました。大会スローガンは、沼津のぞみの里の渡邊成美さんが先導の発声を行い、参加者全員で唱和しました。

大会スローガン

- 1 一人ひとりを尊重した支援を進めよう
- 1 地域福祉の拠点づくりを進めよう
- 1 障がいのある人たちの人権を守ろう
- 1 意思決定支援を進めよう





表彰おめでとうございます!

池谷 修会長の主催者挨拶に続いて、顕彰となりました。

今年度は、4名の方に感謝状を贈呈しました。最初に、永年にわたりボランティアとして施設利用者との交流や施設行事への参加活動を通じて障害者の体力づくりに寄与された、石井英機様に感謝状を贈呈し（ご本人は欠席の為代理の方が受領）、続いて、永年にわたり愛護ギャラリー展の審査員を務めていただいた、落合英男様（欠席）、鈴木直喜様、稲葉昌代様の3名に感謝状を贈呈しました。

その後、15年以上施設職員として職務に精励し、知的障害児者の福祉に寄与された方々38人に表彰の楯が贈られました。

被表彰者名簿（38名）

（順不同、敬称略）

氏名	施設名	氏名	施設名
田中大輔	エイブル富岳	中町一六	富士市立そびな寮
桑原幸代		木村清子	富士障害者就業・生活支援センターチャレンジ
山田睦美	エンゼルらんぷ	鈴木由紀子	富士見学園
鈴木俊也		町田友昭	
山本壮太郎	さしだ希望の里	石原圭一郎	富士本学園
臼井めぐみ		森嶋基明	富士明成園
関本顕耶	サポートセンターふがく	仁藤宏美	駿遠学園
熊山浩之	駿豆学園	榊原香織	児童発達支援事業所わかば園
高橋和志		鈴木利往	みすず
山田欣恒	駿東学園	森 一美	ルーチェ仰陽
音淵早百合		乗松宏幸	あおば
杉山悦子	総合地域サポートセンターひまわり	大石則子	あおばのさと
瀧本千香子		渥美和利	あきは寮
田代 篤	地域生活支援センターせふりー	太田裕子	児童発達支援センターひまわりひくまの丘
松浦恵子	沼津のぞみの里	内藤由美	児童発達支援センターひまわり
森 正臣		上田紀子	児童発達支援センターひまわりこころん
大場祐治	富岳の郷	赤堀美知夫	静岡県立磐田学園
脇 由起		望月伸晃	
市川かおり	袋井学園		
木村かつ			

顕彰終了後、来賓を代表して、静岡県健康福祉部障害者支援局局長 田光祥浩氏、静岡県社会福祉協議会常務理事 松浦康夫氏よりご祝辞をいただきました。

午前の事例報告は、「強度行動障害支援の取組みについて」と題して、社会福祉法人玉柏会宍原荘のサービス提供責任者 齊藤雅志氏から、水野敦之先生との出会いから始まった宍原荘における強度行動障害者支援についての取組状況の報告がありました。



午後の講演では、リオパラリンピックの走り幅跳びに知的障害者として出場したパーパス株式会社勤務の山口光男選手と山口選手を指導している県立沼津特別支援学校の神田いずみ教諭にお越しいただき、「私がパラリンピックに出場するまで」と題してお話していただきました。

全力を出さない、無気力だった山口青年が神田先生と出会い、「出来ないところを埋めるのではなく出来ることを伸ばす」指導の下、山口選手が世界の舞台で活躍するようになった姿を多くの映像を交え語っていただきました。最後には、山口選手は2020年東京パラリンピックへの想いを熱く語ってくれました。

最後に、滝口裕二副会長（掛川工房つつじ）の閉会の言葉で大会は無事閉会しました。

情報提供 種別・専門部会より

《 児童発達支援部会 》

児童発達支援部会長
(三方原スクエア児童部) 出水巖生

今年度は部会長・副部会長の改選が行われ、部会長は三方原スクエア児童部の出水巖生が再任され、副部会長はガゼルの森の江森静子さんが新任となりました。

平成30年度の報酬改定においては前年12月に改定率が0.47%という厳しい数字が示され、児童分野における改定内容が注視されていましたが、障害児入所施設に関してはかねてから職員配置基準の改定を要望として挙げてきた中で児童指導員等加配加算の創設に留まる結果となりました。また放課後等デイサービスについては基本報酬が見直され区分導入により減収が懸念される状況となっています。

近年、障害児と家庭状況が大きく変化し、その支援体制と地域連携の在り方が問われていますが、この状況を踏まえて児童発達支援部会として今後も更に事業所同士の連携と意識を深め、質の向上と行政や国に対しての働きかけを行っていきたいと思います。

今年度の主な取組みは、通園では7月6日(金)にシズウェルにて施設長研修会が開催され、東海短大の大石明利氏(前部会長)による講演と事例発表が行われました。入所の研究集会は11月29日(木)~30日(金)にホテルクラウンパレス浜松にて実施予定です。また9月22日(土)には第4回目となる静岡県児童発達支援・子どもフォーラムを光真坊浩史先生を招き、対応困難ケースをテーマとして実施します。以上、今年度もどうぞよろしくお願い致します。

《 障害者支援施設部会 》

障害者支援施設部会長
(駿豆学園) 天良昭彦

始めに、この度の西日本を中心とした豪雨災害で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

平成30年度は3年に1度の障害福祉サービス等報酬改定で幕を開けました。

障害者支援施設に係る生活介護、施設入所支援、短期入所では、基本報酬が微増ながらプラス改定となり、夜間職員配置体制加算も引き上げられました。また、重度障害者支援加算Ⅱに関する経過措置が一年間延長される等、現時点では大きな混乱は聞こえてきません。また、地域生活支援拠点等の整備強化が叫ばれる中、拠点となりうる機能は、実は障害者支援施設にすでに備わっているところであり、新たな日中サービス支援型共同生活援助の創設と合わせて、障害者支援施設の必要性を示されたように思います。

次期報酬改定に向け検討事項はすでに国により示されており、我々も今後事業を進めていく上で課題等を明らかにし、取りまとめていく必要があります。

なお、今年度の部会研究集会は10月29日・30日、ホテルクラウンパレス浜松で開催されます。当番施設は根洗寮。発表施設は伊豆つくし学園とインスマエルに担当していただきます。初日の講演と施設長分科会の内容は現在調整中ですが、重度障害者支援加算Ⅱの算定に必要な強度行動障害の支援計画シートの作成を東部地区の有志が着手しており、施設長分科会でお示しする予定です。

《 日中活動支援部会 》

日中活動支援部会長
(ほっと) 家込 久志

新年度のスタートが慌ただしく始まりました。

今年度は報酬改定という大きな変化があり、安定した施設運営をしていくためには、制度や改定の趣旨に加え、加算や減算などの正しい知識を身に付けていく必要性を感じ、この部会内での情報共有も重要ではないかと思われまます。

どの施設も安定した事業の継続を願うのはもちろんですが、年々事務量が増えていく中で、人材の育成にも時間を掛けていくことの大切さも強く感じております。日中活動支援部会としては、人材の育成においては管理者のみならず、中堅職員からの意見も組みいれながら人が人を育てていくことに尽力したいと考えています。

さらに東海地区代表4県の施設長が県単位の枠を超えいつでも情報が交換・共有できる関係を築いていけるような取り組みを新たに始めていきます。そこで得た情報は皆さまと集う機会にお知らせし、共有していきたいと考えております。

当部会の関係する研修等は次の通りです。

7月12日～13日 東海地区職員研修会 愛知県

9月3日～4日 東海地区施設長会議 三重県

11月29日～30日 日中活動支援部会研究集会 神奈川県横浜市

11月16日～17日 県日中活動支援部会研究集会

12月ごろ(日時未定) 県日中活動支援部会スタッフ代表者会議

《 生産活動・就労支援部会 》

生産活動・就労支援部会長
(掛川工房つつじ) 滝口 裕二

今回の報酬改定と制度改定の就労系サービスでは、基本単価及び各種加算の部分においては、意図するものとは違った形ではありますが、成果主義が取り入れられました。就労移行支援では定着率、就労継続支援 A 型では平均労働時間が、就労継続支援 B 型では平均工賃月額での基本報酬が設定されました。これまで高工賃を実現してきた事業所は、目標工賃達成加算が大きく影響する所も多く、突然の加算廃止により厳しい経営を強いられる結果となりました。工賃向上計画を今後も掲げていく事には、些か矛盾もあります。

今年度の部会研究集会においても、厳しい就労継続支援の方向性などについて、情報共有と各施設との連携を図りながら、多くの議論を深めて行きたいと思います。

今年度、部会研究集会は西部中遠地区 E ブロックが担当。11 月 1 日 (木) ~2 日 (金) に浜松を会場に施設見学を含め、「工賃向上について」「生活支援について」の分科会設定をし、皆さんと今後の「就労支援」の在り方について等を再確認していけたらと思います。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

《 地域支援部会 》

地域支援部会長
(クララ寮) 高木徳雄

今年度より地域支援部会長の大役を仰せつかりました、社会福祉法人ミルトス会クララ寮管理者の高木と申します。至らない点が多いかと思いますが、諸先輩方からの教を乞い、周りの方たちの協力を仰ぎながら努めさせていただきますので宜しくお願い致します。

さて、地域支援部会では、今年度最初の会議において、研究集会のテーマ等、ふれあい交歓会の実施予定等について話し合いをしました。主にこの 2 点について報告致します。

研究集会では例年、利用者への支援の在り方を様々な角度から見つめ、それぞれの意見を各事業での支援に活かしてきました。今年も各事業所からの課題や意見の交換をした結果、より良い利用者支援につなげるための関わりや関係の構築といった内容を主題に、事例発表、グループワークを予定しています。世話人さん、生活支援員等の参加を募り、有意義な会議となるよう準備してまいります。

ふれあい交歓会については、交歓会の内容、参加者の減少傾向等、かねてよりの課題について取り上げました。ふれあい交歓会の趣旨を再確認し、「参加対象者の拡大」、「交歓会後半の交流会の中身について新たな趣向」を提案させていただき、現在企画中です。また、交歓会についての現状を知るためのアンケートも実施させていただき、皆様の声を基に、毎日の生活の意欲につながるイベントとなるよう準備してまいります。

それぞれ改めましてご案内致しますので、どうぞ宜しくお願い致します

《 相談支援部会 》

相談支援部会長 中村 文久
(障害者就業・生活支援センターさつき)

5 月 23 日に東、中、西部各圏域から 10 人 (特定相談 7、委託相談 2、地域定着 1、なかぼつセンター 3 (重複あり)) の部会員に集まっていただきました。各参加者から地域の状況を報告し

ていただき、意見交換を行いました。

以下、地域の状況と意見交換で出された主な意見です。

○地域の状況

- ・市町によりモニタリング頻度が違う。
- ・特定相談は事業所が少なく業務量が過多。
- ・児童は4月にまとめて更新となる市があり大変。
- ・加算について曖昧、取るための書式統一を検討している地域がある。
- ・就労定着支援はまだ指定されたところは少ないが、富士圏域では立ち上がっているところがあり行政も理解がある。
- ・日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用する人が増えている。
- ・計画相談件数（1人当たり）30件～225件と相当の開きがある。

○意見交換

- ・特定事業加算について、加算4を取っている事業所はいくつかある。加算3だと24時間体制になるので携帯電話を持たないといけなくなる。精神障害の人からの電話が多い。
- ・自立生活援助を行っているところはない。
- ・地域生活支援拠点整備は各地域でプロジェクトを立ち上げ準備中。静岡市は既に実施している。
- ・相談支援部会でも事業所が増えてきたので研修会等の実施を検討したらよい。

平成30年度 静岡県知的障害者福祉協会職員研修所講座 案内

講座名	回数	開講日	会 場	講師	
心理学療法講座	3回	7月3日(火)	もくせい会館 第五会議室	福永 博文 氏 浜松学院大学短期大学部 名誉教授 専門行動療法士, 臨床心理士	
		7月10日(火)			
		7月17日(火)	静岡県総合社会福祉会館 601 会議室		
絵画療法講座	休 講				
音楽療法講座	3回	7月31日(火)	男女共同参画センター あざれあ 6階小ホール	野田 奈津代 氏 音楽処ベルの木主宰 音楽療法士・ヴォイストレーナー	
		8月3日(金)			
		8月28日(火)			
障がい者スポーツ講座	3回	9月13日(木)	静岡県総合社	602 会議室	大塚 康夫 氏 公認上級障害者スポーツ指導員
		10月25日(木)	会福祉会館	103 会議室	
		11月10日(土)	草薙総合運動場		
医療・看護講座	3回	6月11日(月)	静岡県総合社会福祉会館 601 会議室	山倉 慎二 氏 社会福祉法人子羊学園 重症心身障害児施設つばさ 静岡施設長・医師	
		7月9日(月)			
		9月10日(月)			
カウンセリング講座	3回	6月12日(火)	もくせい会館 第五会議室	杉本 好行 氏 静岡福祉大学社会福祉学部 福祉心理学科 特任教授 臨床心理士	
		6月19日(火)			
		7月3日(火)	静岡県総合社会福祉会館 601 会議室		

静岡県知的障害者福祉協会会長退任の挨拶

静岡県知的障害者福祉協会
前会長 八谷 重之

3期6年の任期を務めさせていただき感謝申し上げます。また、本協会の運営や活動に対しましてご協力、ご支援をいただきましたことに会員、副会長・理事等役員、事務局の皆様、関係された皆様に感謝申し上げます。

在任期間を振り返れば、障害者の権利条約の批准に向けての国内法制度の整備が進められてきた時期であり、地震や水害など様々な災害の復興や生活弱者への対策が問われる時期でもありました。また、津久井やまゆり園事件に代表される障害のある方々の生存や支援、社会との関わりが問われはじめる時期でもありました。これらはきっと障害者福祉だけに留まらず、日本の社会保障の歴史に刻まれる大きな出来事や課題とされるだろうと考えています。このような時代に県の会長を担わせていただきましたが、会員の皆様の期待に十二分にお応えするに至らなかった点についてはお詫びを申し上げます。

新年度からは、池谷新会長の下で皆様の新しい視点、新しい動きで県協会を益々意義あるものにしていただきたいと思います。現役としてはひと段落付けた気持ちでおりましたが、県協会の顧問として、東海地区会の監事として、日知協の会長推薦評議員として役割を果たすよう声を掛けていただきました。微力ではありますが引き続きお手伝いをさせていただきます。更に日知協社会福祉士養成所につきましては運営委員会にカムバックする事になりました。養成所の受講生確保や実習についてお願いすることもあるかと思いますがよろしくお願い致します。

県会長としては、これまでのご協力に感謝に感謝申し上げ、これからの本協会へのご協力をお願いし退任の挨拶とさせていただきます。

ほんとうにありがとうございました。

《編集後記》

7月12・13日に愛知県豊橋市で開催された、第55回東海地区知的障害者関係施設職員研究協議会に参加してきました。1日目は、6分科会に分かれ、それぞれ発表と、グループワークが行われました。2日目は、アンガーマネジメント、インシデント・プロセス、ワールドカフェのそれぞれの演習が、開催されました。今回、初めてワールドカフェ形式の演習を拝見させていただきました。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、ワールドカフェと



(障害者支援部会・グループワーク)

は、リラックスした雰囲気の中で、ディスカッションしながら、相互理解を深めて組織力を高めていくもので、新たな会議や会合、意見交換の進め方として注目されています。

来年は、静岡県が開催県となり、浜松で開催されます。会員施設皆様方の協力と、多数の参加をお願いいたします。

しずおか愛護No.33 お届けします。



(ワールドカフェ)

(広報担当 三田充彦)